

# ブランドィワイン 米国債券戦略ファンド

(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 債券



お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

**三菱UFJモルガン・スタンレー証券**

商号：三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号  
加入協会：日本証券業協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会 /  
一般社団法人金融先物取引業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は

**NOMURA**  
野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会 /  
一般社団法人日本投資顧問業協会 /  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

# MESSAGE

日本の投資家の皆様へ

ブランディワイン・グローバル・インベストメント・マネジメント(以下、ブランディワイン・グローバル社といいます)は、1986年の創業以来一貫して、バリュー投資を運用哲学の中核に据え、長期的な視点で投資を行なうことでパフォーマンスを最大化させるアクティブ運用戦略を展開してまいりました。質の高い運用と良好な運用実績を提供し、顧客の利益に資することで、信頼関係を築くことが私たちの信念です。

ブランディワイン米国債券戦略ファンドは、独自のマクロ経済分析とバリュエーション分析の両面から投資機会を見つけ出し、高い確信度に基づいた投資を行ない、米国債券市場を安定的に上回る運用付加価値を生み出すことを目指します。

皆様のポートフォリオに当ファンドを組み入れていただくことで、不確実な市場環境においても、長期的に分散効果と付加価値を提供することが、私たちの使命であると信じています。

ブランディワイン米国債券戦略ファンド  
運用チーム一同



## ファンドのポイント

### 1 米ドル建ての信用力の高い債券に投資します

- 米国国債、政府関連債、住宅ローン担保証券、投資適格社債を中心に、米ドル建ての債券に投資します。
- 投資対象となる債券の格付はBBB一格相当以上（投資適格格付）とします。

当資料での格付表記はS&P社を基にしています。

### 2 積極的なデュレーション調整と、投資機会を捉えたバリュート投資を通じて収益獲得を目指します

ブランディワイン・グローバル社におけるバリュート投資とは、本質的価値と比較して割安かつ魅力度の高い銘柄への投資のことをさします。

- ブランディワイン・グローバル社によるマクロ経済分析とバリュートーション分析を活用します。

市場環境に応じた  
積極的なデュレーション調整



割安かつ魅力度が高い銘柄を  
発掘して投資



ブランディワイン・グローバル社のマクロ経済分析とバリュートーション分析

### 3 長期にわたり安定的な運用実績を誇る運用戦略です

- 過去の市場の下落局面において、相対的に下値を抑制し安定的な運用となりました。


資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。



# 米ドル建ての信用力の高い債券に投資します


- ファンドは、米国国債、政府関連債、住宅ローン担保証券、投資適格社債を中心に、米ドル建ての債券に投資します。

## 主な投資対象とその特徴




**米国国債**

- 米国政府が発行する債券。
- 信用力が高く、安全性が高いため、相対的に利回りは低くなる傾向がある。




**政府関連債**

- 政府機関や地方政府等が発行する債券。
- 信用力が比較的高いため、利回りは低くなる傾向がある。




**政府系住宅ローン担保証券**

- 住宅ローンを担保とし政府系機関が発行する証券。
- 信用力は高いが、期限前償還リスクがあるため、他の高格付債券より利回りが高くなる傾向がある。



**非政府系住宅ローン担保証券**

- 住宅ローンを担保とし非政府系機関が発行する証券。
- 政府系と比べ信用力が低い分、利回りが高くなる傾向がある。
- 変動金利で設定されることが多い。

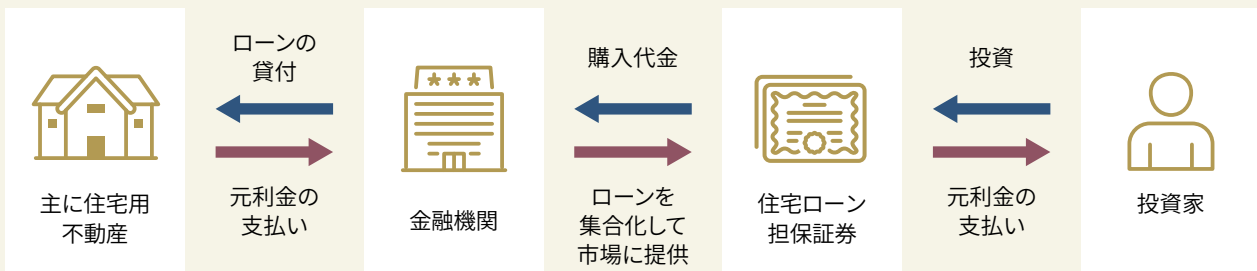


**投資適格社債**

- 企業が発行する債券で、格付がBBB一格以上のもの。
- 信用力は比較的高いが、企業の信用力等に応じて利回りが異なる。

### ご参考 住宅ローン担保証券の仕組み(イメージ図)

住宅ローン担保証券とは、住宅ローン債権を担保として発行される証券のことで、資産担保証券の一種です。



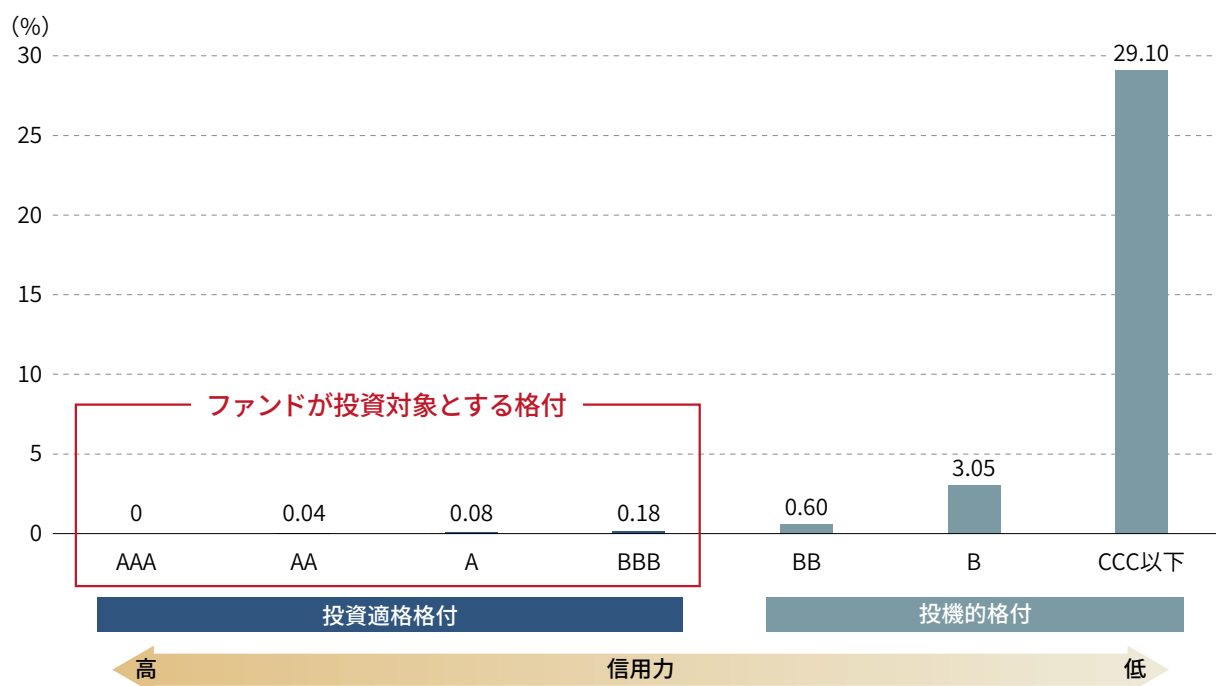
上記は、投資対象となる債券のすべてを記載しているものではありません。また、一般的な特徴を示したものであり、すべての特徴や仕組みを網羅したものではありません。

- ファンドの投資対象となる債券の格付はBBB一格相当以上<sup>※1</sup>とします。一般的に投資適格格付債券は投機的格付債券と比べてデフォルト<sup>※2</sup>になる可能性は低いと言えます。

※1 取得時にBBB一格相当未満(投機的格付)の銘柄への投資は行ないませんが、格下げを理由に一部投機的格付銘柄を保有する場合があります。

※2 デフォルトとは、債券の利子や元本の支払いが定められた契約どおりに履行されないことです。

### 米国社債の格付別デフォルト率

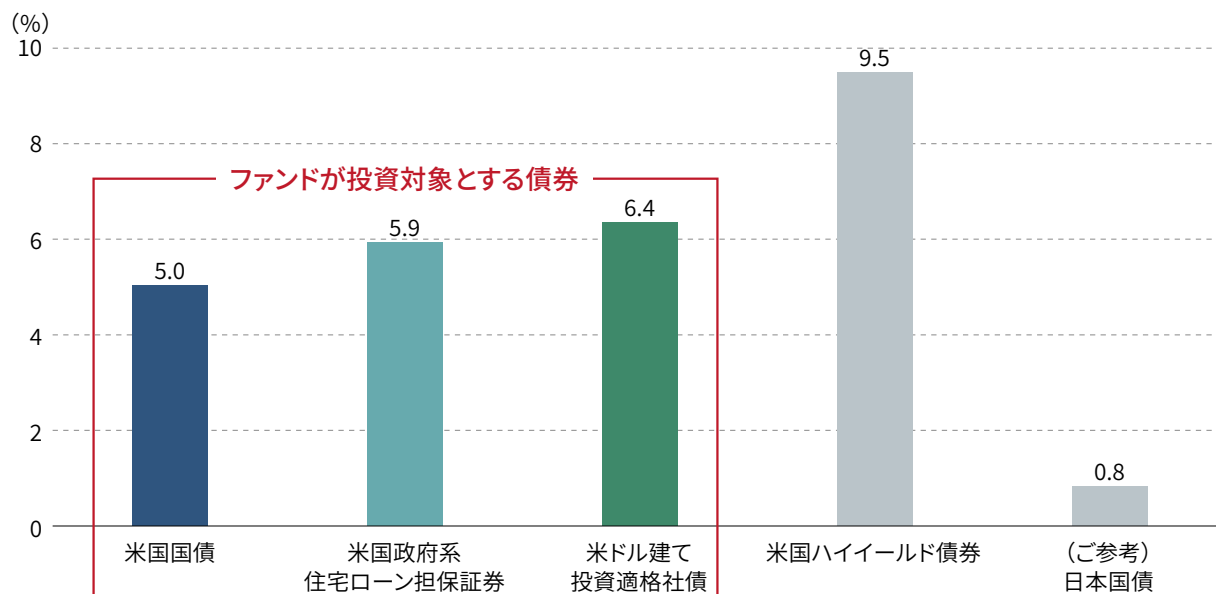


2000年～2022年の平均値

小数第3位を四捨五入しています。

(出所) S&P社のデータを基に野村アセットマネジメント作成

### 主な米ドル建て債券の利回り比較(課税前)



2023年10月末現在

米ドルベース。日本国債のみ円ベース。使用したデータは、13ページ「当資料で使用した指数等について」をご参照ください。

(出所) ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。



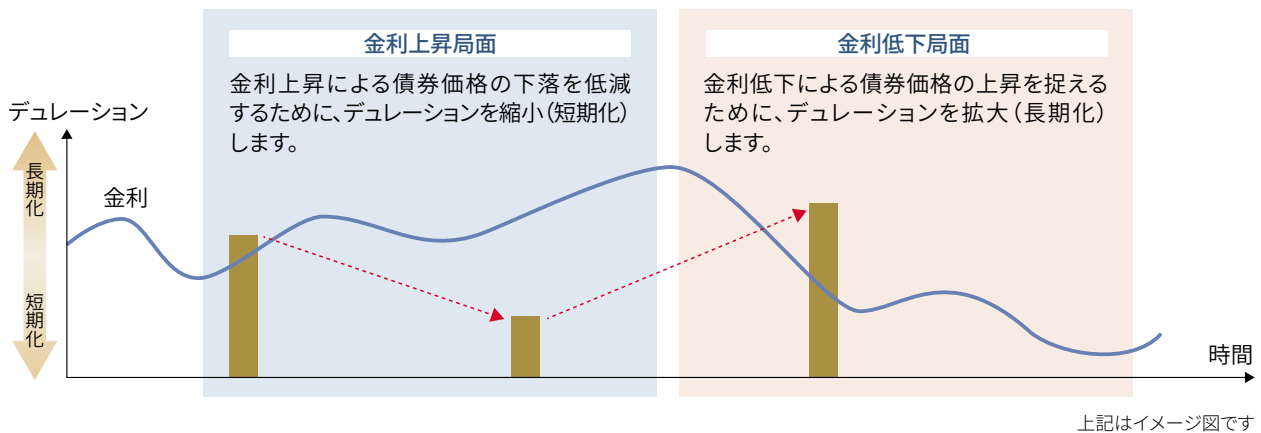
# 積極的なデュレーション調整と、投資機会を捉えたバリュート投資を通じて収益獲得を目指します

## 市場環境に応じて積極的にデュレーションを調整

- 市場環境に応じてデュレーションを積極的に調整することで金利変化に柔軟に対応します。
- ブランディワイン・グローバル社の経験豊富な運用チームによるマクロ経済分析（景気循環、金利環境、クレジット市場等を基にした分析）と優れたリサーチ能力を活かしたバリュート分析を活用します。

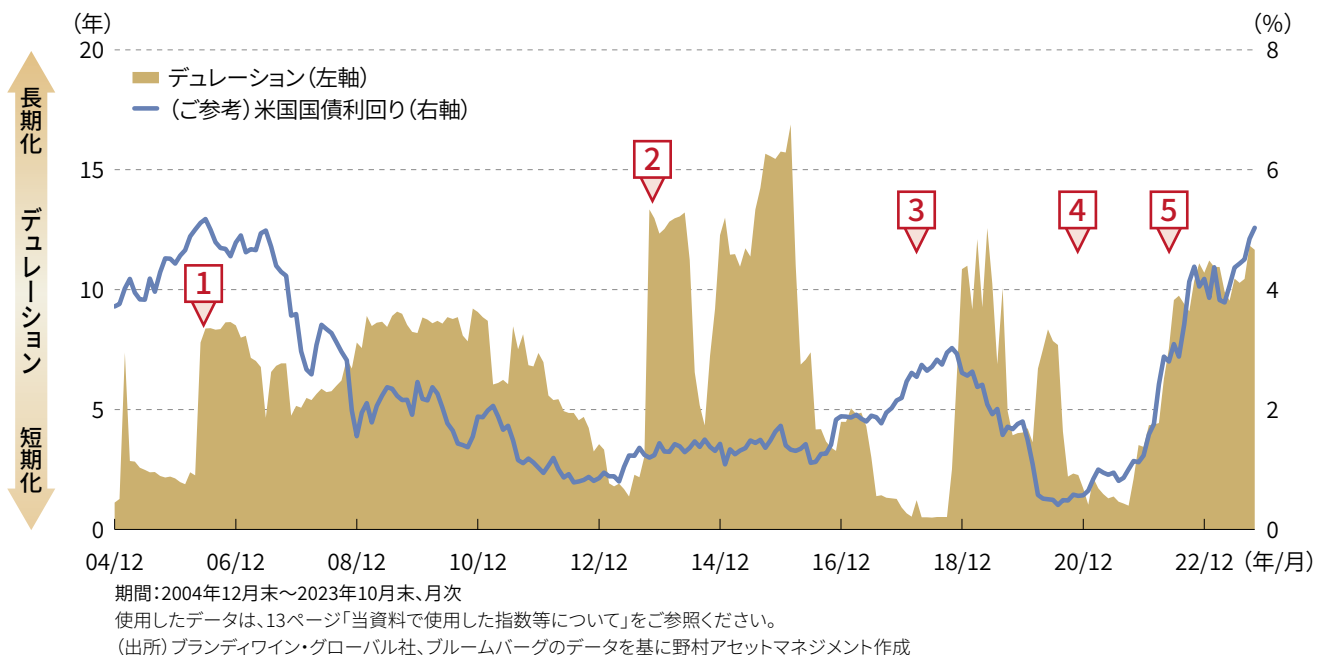
デュレーションとは：金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標です。

デュレーション調整のイメージ



## ブランディワイン運用戦略のデュレーション推移

- 1 米国の金融引き締めと住宅ブーム終了後の米国家計の過剰債務等を背景とした景気減速懸念により、金利が低下すると判断しデュレーションを長期化
- 2 米国の量的緩和が市場予想よりも早いタイミングで縮小されるとの懸念から市場が混乱したものの、市場の鎮静化と金利低下を見込んでデュレーションを長期化。その後も、市場環境に対応して機動的にデュレーションを調整
- 3 堅調な米国経済に対する積極的な金融引き締めによる金利上昇を見込んでデュレーションを短期化
- 4 コロナ禍に迅速かつ大規模な金融・財政政策が実施されたことで、景気回復にともなう金利上昇を見込んでデュレーションを短期化
- 5 インフレ抑制を目的とした米国の金融引き締め強化を受け、米国の景気後退と金利低下を見込んでデュレーションを長期化

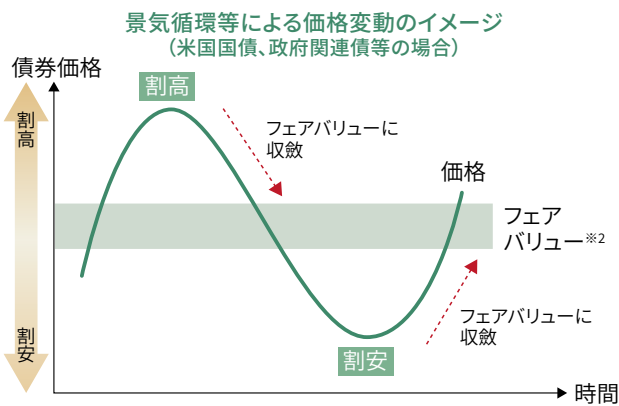


## 割安かつ魅力度が高い銘柄を発掘して投資

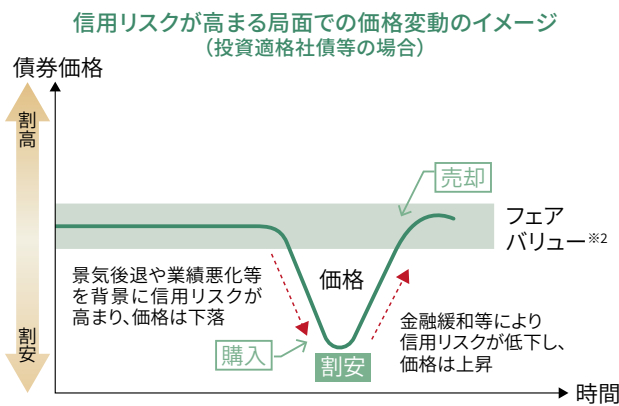
- 割安かつ魅力度の高い銘柄を発掘して投資※1します。例えば、金融危機等の信用リスクが高まる局面では、バリュエーションが魅力的になった投資適格社債への投資を積極的かつ機動的に引き上げます。
- ブランディワイン・グローバル社の経験豊富な運用チームによるマクロ経済分析と優れたリサーチ能力を活かしたバリュエーション分析を活用します。

※1 ブランディワイン・グローバル社におけるバリュエーション投資

**バリュエーションとは：**一般的に割高・割安かを図るものさしですが、当ファンドではブランディワイン・グローバル社のアナリストにより市場の価格などを勘案して分析を行なっています。



※2 ブランディワイン・グローバル社の独自分析により算出した債券が本来有する価値



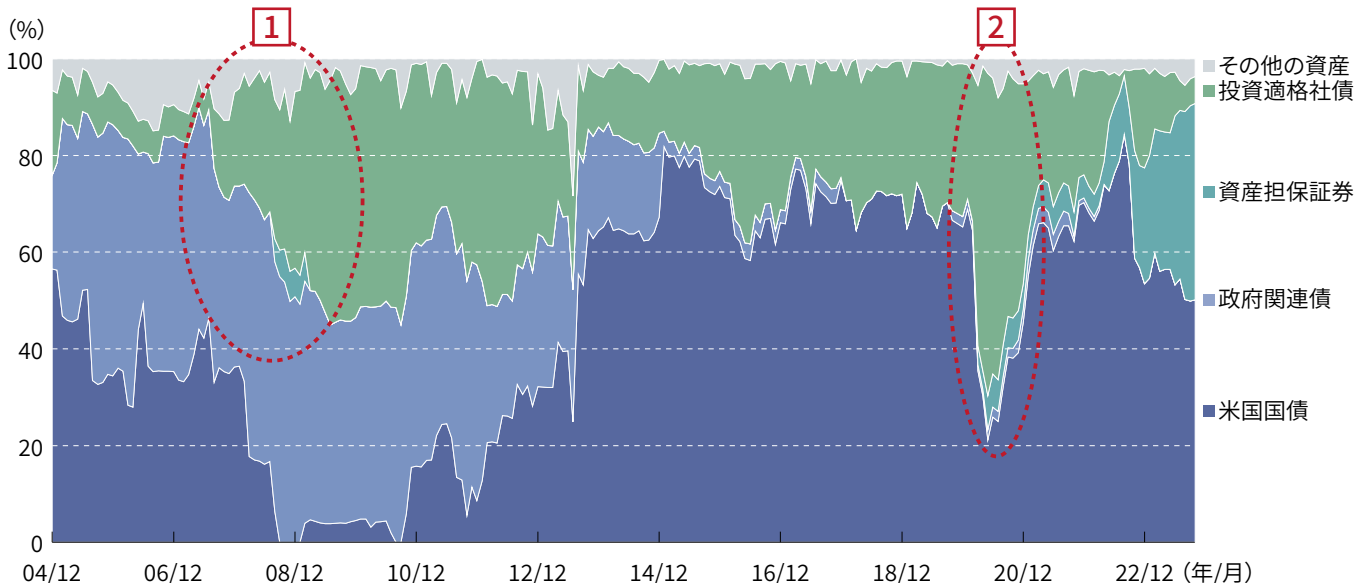
上記はイメージ図です

## ブランディワイン運用戦略の債券種別配分の推移

### 1 リーマンショック時

### 2 コロナショック時

投資家心理が悪化する中、投資適格社債のバリュエーションが割安となったことに加えて、米国の金融緩和や財政出動等を背景に今後のバリュエーションが改善すると判断し、投資適格社債の組入比率を引き上げ



(注) 上記はすべて米ドル建て債券。政府関連債は地方債や国営企業・政府系機関の債券を含みます。資産担保証券は住宅ローン担保証券や商業用不動産ローン担保証券等を含みます。投資適格社債は格下げにより投機的格付となった銘柄も一部含みます。

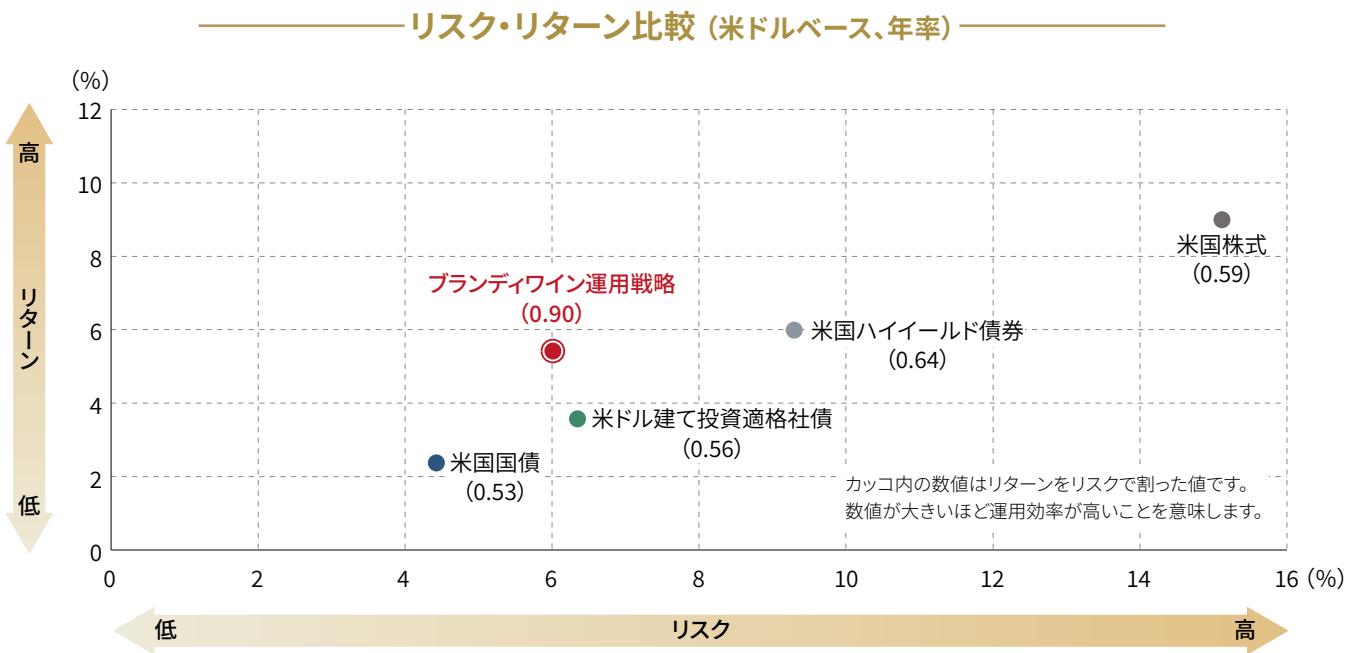
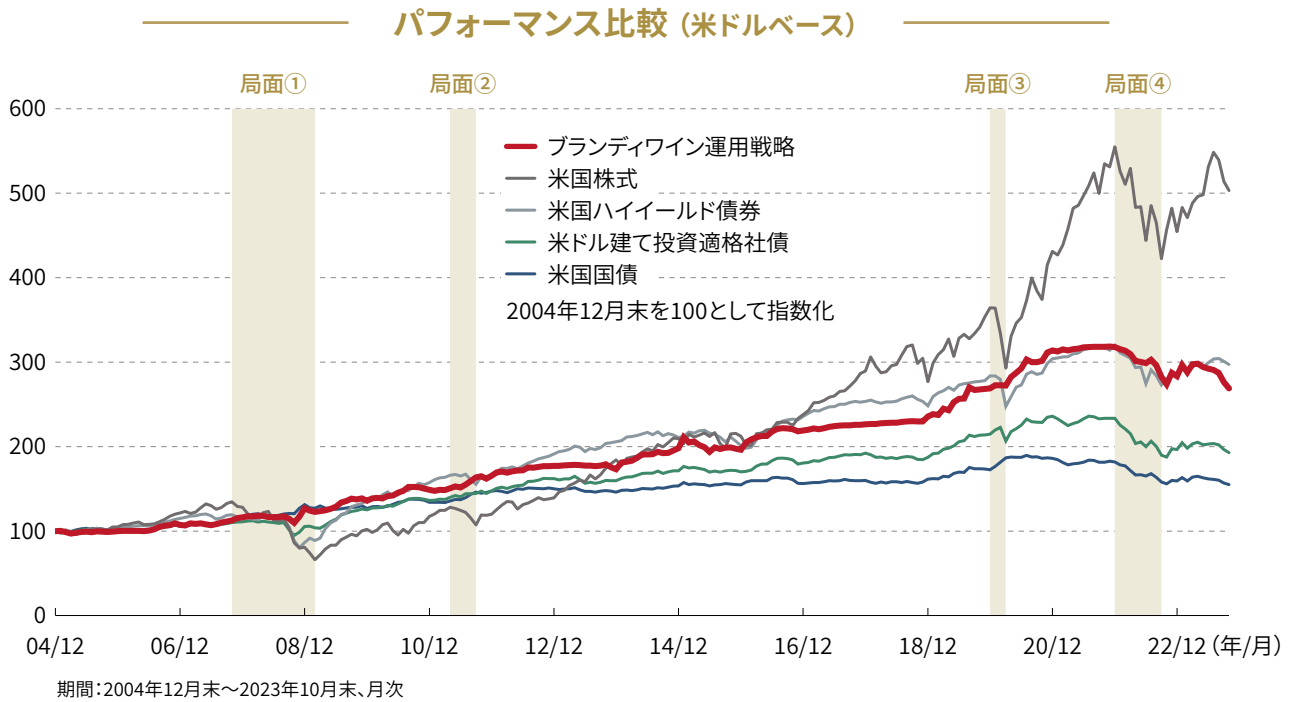
使用したデータは、13ページ「当資料で使用した指数等について」をご参照ください。

(出所) ブランディワイン・グローバル社のデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、**ファンドの運用実績ではありません**。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# 長期にわたり安定的な運用実績を誇る運用戦略

- ファンドと同様の運用体制、運用方針をもつブランディワイン運用戦略のパフォーマンスは、下記の期間で見ると、概ね他の債券資産を上回りました。
- ブランディワイン運用戦略と主要な債券資産を比較すると、リスクに対するリターンの割合が最も高く、相対的にリスクを抑えた安定的な運用だったことがわかります。



期間: 2004年12月末～2023年10月末、月次  
 リスクは月間変化率の標準偏差を年率換算しています。標準偏差とは、平均収益率からどの程度乖離するか、リターンの振れ幅を示す数値です。

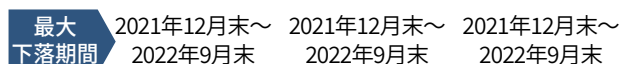
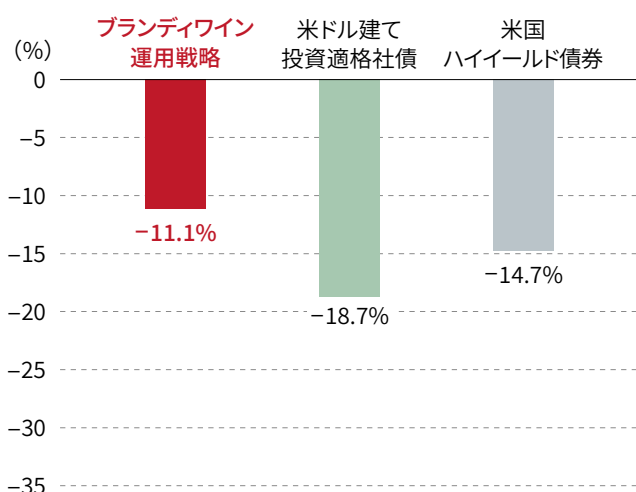
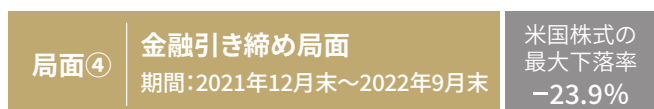
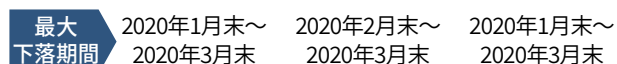
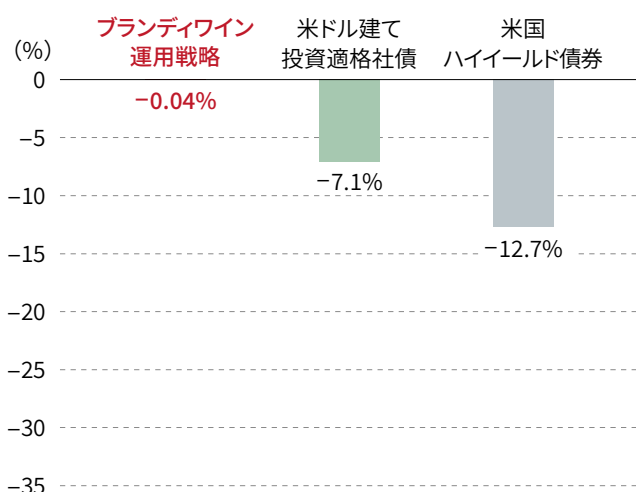
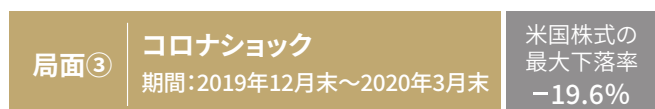
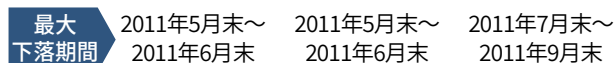
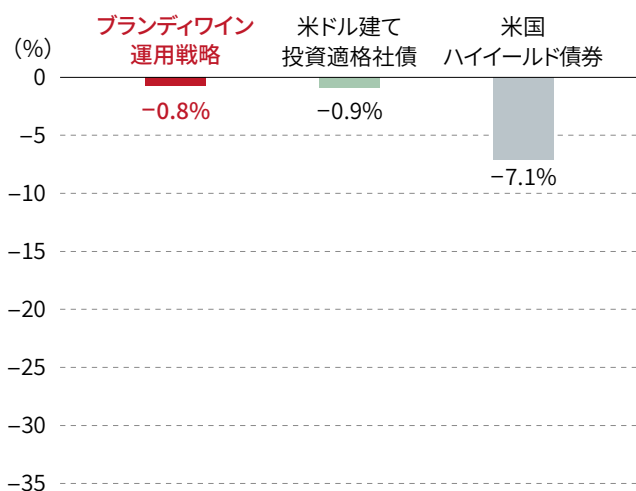
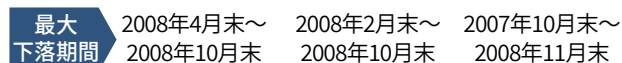
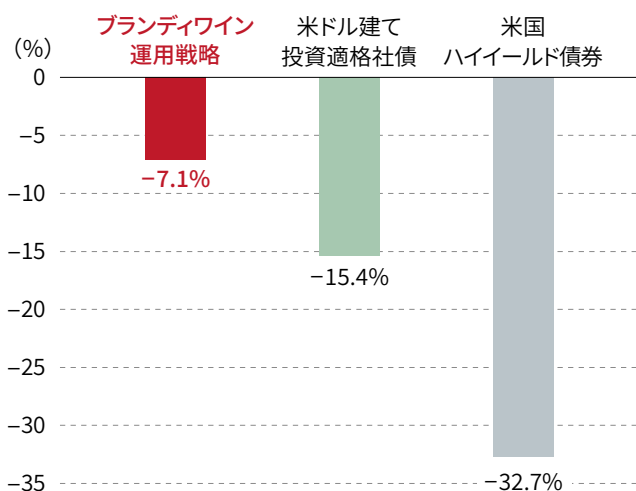
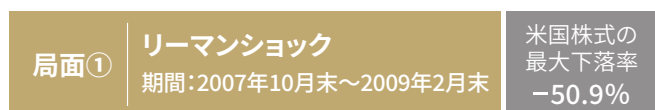
使用したデータは、13ページ「当資料で使用した指数等について」をご参照ください。  
 (出所) ブランディワイン・グローバル社、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
 また、**ファンドの運用実績ではありません**。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。



- 過去のリスクオフ局面において、米ドル建て投資適格社債や米国ハイイールド債券と比較して、ブランディワイン運用戦略は下値を抑制することができました。

## 過去のリスクオフ局面における最大下落率の比較 (米ドルベース)



各局面は、米国株式において高値からその後の安値までの下落率が15%を超えた期間としています。最大下落率とは、各局面の期間中に、各資産において最も大きくなった下落率を指します。

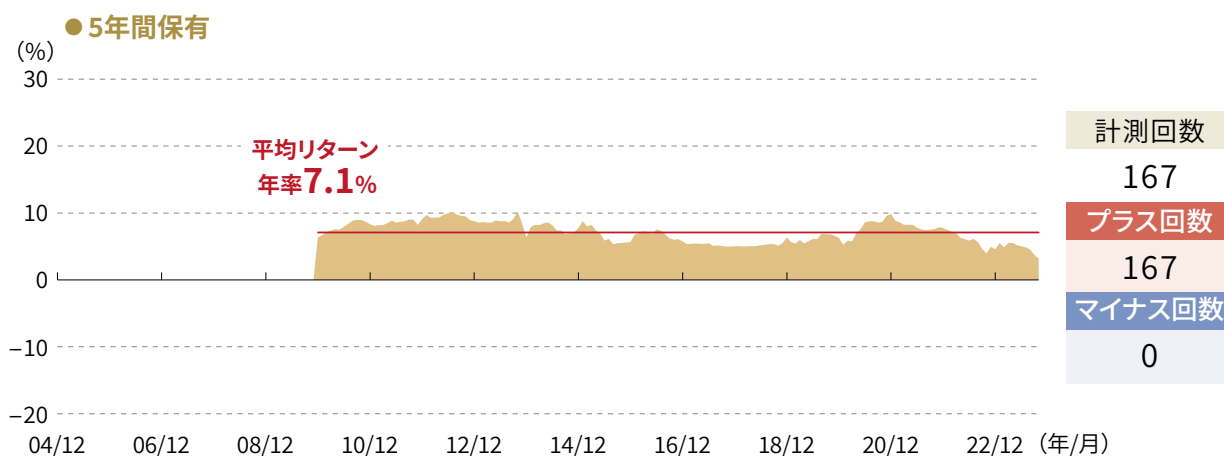
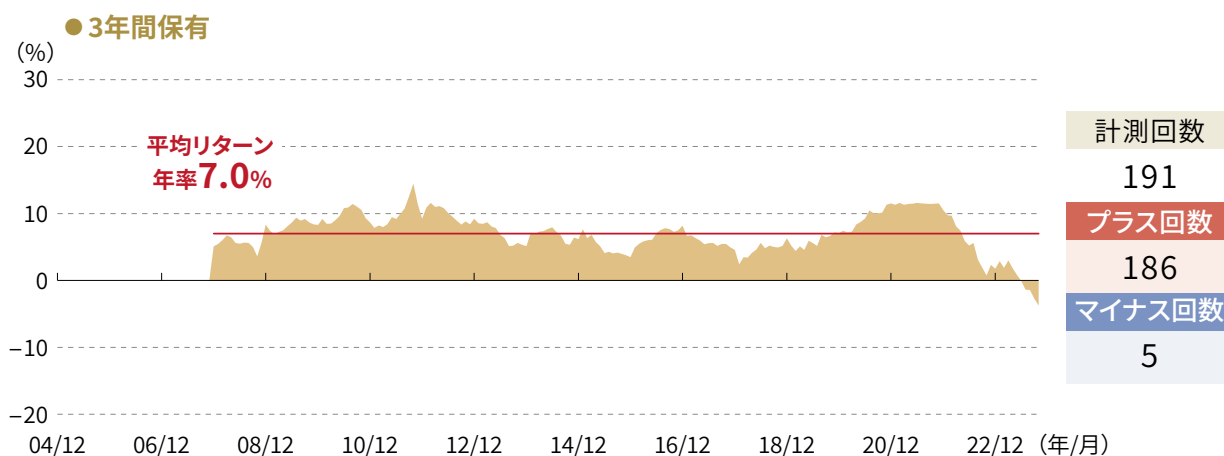
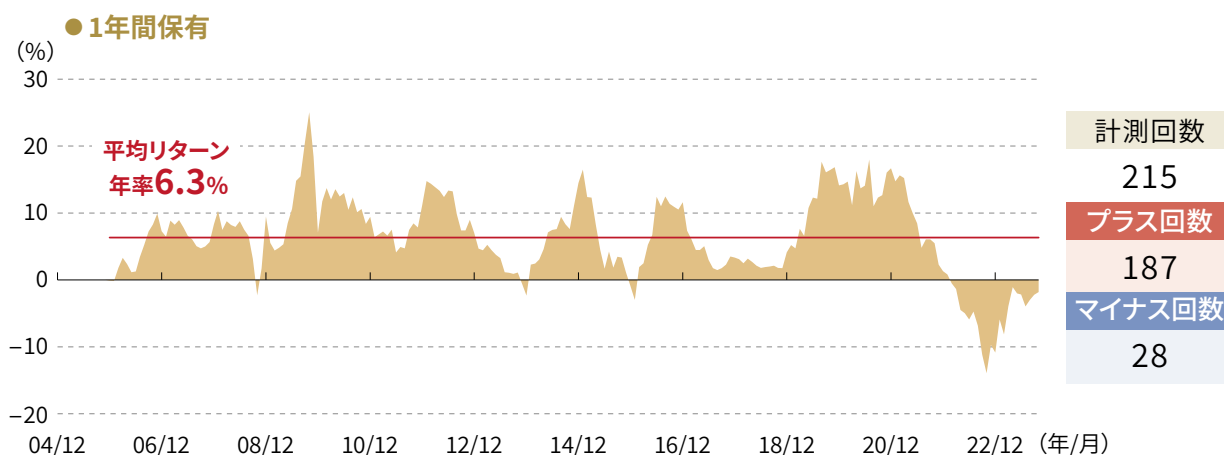
使用したデータは、13ページ「当資料で使用した指数等について」をご参照ください。  
 (出所) ブランディワイン・グローバル社、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
 また、**ファンドの運用実績ではありません**。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# 長期投資の効果

- ブランディワイン運用戦略の保有期間別リターン比較をみると、長期間保有するほどリターンがマイナスとなる回数が減り、5年間保有ではすべての期間でプラスリターンとなり、長期投資の効果がみられました。

ブランディワイン運用戦略の保有期間別リターン比較 (米ドルベース、年率)



期間：2004年12月末～2023年10月末、月次

上記は2004年12月末から2023年10月末の月次データを基に、基準月まで一定期間保有した場合の年率リターンです。それぞれ1年間、3年間、5年間にわたり資産を保有したと仮定し、各基準月時点でどの程度のリターンが得られたかをシミュレーションしています。

使用したデータは、13ページ「当資料で使用した指数等について」をご参照ください。

(出所) ブランディワイン・グローバル社のデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# 他資産との分散

- ブランディワイン運用戦略は、長期で見ると米国株式との相関が低くなりました。ファンドと米国株式を組み合わせる場合、分散投資効果が期待されます。

## 他資産との相関 (米ドルベース)

### ● 長期 (2004年12月末以降) の相関

期間: 2004年12月末~2023年10月末、月次

	ブランディワイン 運用戦略	米国国債	米ドル建て 投資適格社債	米国 ハイイールド債券	米国株式
ブランディワイン 運用戦略	1.00				
米国国債	0.75	1.00			
米ドル建て 投資適格社債	0.77	0.57	1.00		
米国 ハイイールド債券	0.27	-0.09	0.65	1.00	
米国株式	<b>0.14</b>	-0.13	0.45	0.74	1.00

### ● 直近5年間の相関

期間: 2018年10月末~2023年10月末、月次

	ブランディワイン 運用戦略	米国国債	米ドル建て 投資適格社債	米国 ハイイールド債券	米国株式
ブランディワイン 運用戦略	1.00				
米国国債	0.79	1.00			
米ドル建て 投資適格社債	0.80	0.68	1.00		
米国 ハイイールド債券	0.42	0.17	0.77	1.00	
米国株式	<b>0.36</b>	0.12	0.63	0.84	1.00

相関係数は2つの資産間の値動きの関係性を表す指標。1から-1までの範囲で表され、相関係数が1に近い場合には、一方の上昇率(下落率)が大きくなると、他方の上昇率(下落率)も大きくなる傾向が強く、相関係数が0に近い場合には、双方の騰落率の動きには関連性がないことを示しています。相関係数がマイナス1に近い場合は、一方の上昇率(下落率)が大きくなると他方が下落(上昇)するなど逆の動きをする傾向が強いことを示しています。

使用したデータは、13ページ「当資料で使用した指数等について」をご参照ください。  
(出所) ブランディワイン・グローバル社、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# ブランディワイン・グローバル社のご紹介

ブランディワイン・グローバル・インベストメント・マネジメントは、  
1.4兆米ドルの運用資産を誇る世界有数の資産運用グループ  
「フランクリン・テンプルトン」傘下の運用会社の1つです。

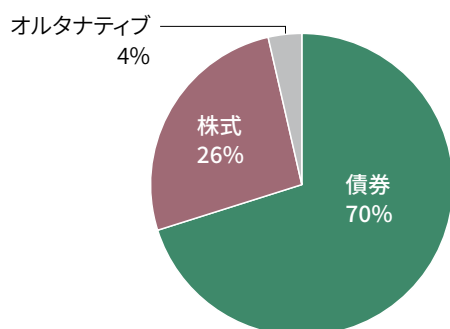
(2023年9月末現在)

同社は米国フィラデルフィアに本社を構え、バリュー投資を運用哲学の中核とする資産運用会社です。特に、債券運用に強みを持っており、米国を中心としてグローバルに運用残高を有します。

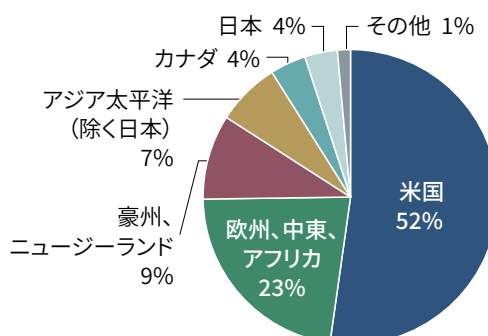


## ブランディワイン・グローバル社の運用残高:約559億米ドル(2023年9月末現在)

### ● 資産別運用残高比率



### ● 国・地域別運用残高比率



四捨五入により合計が100%とならない場合があります。

## ブランディワイン・グローバル社の強み



### 一貫したバリュー投資

ブランディワイン・グローバル社の創設以来、一貫してバリュー投資(割安投資)を投資哲学のコアとする運用を手掛けることで、長期的に優れた運用成果に繋がるように努めてきました。



### 独自のマクロ分析

グローバルに展開する経験豊富な運用チームにより、資産価格に影響を及ぼすマクロテーマを特定し、ビジネスサイクルを見極めることで、魅力的な投資機会を提供します。



### 確信度の高い戦略

短期的な目線で投資を行わず、長期的なパフォーマンスの最大化を目指し、確信度の高い戦略に基づきポートフォリオを構築します。

(出所) ブランディワイン・グローバル社の提供情報等を基に野村アセットマネジメント作成

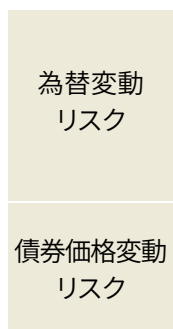
上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# ファンドについて

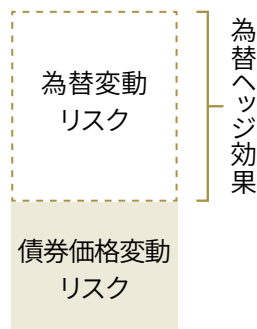
## 為替ヘッジについて

- ブランディワイン米国債券戦略ファンドは、「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2種類からお選びいただけます。
- 米ドル建て債券への投資には、為替変動リスクがありますが、為替ヘッジを行なうことで為替変動の影響を低減できます。ただし、為替ヘッジには為替ヘッジコスト（通貨間の金利差）がかかります。

### 為替ヘッジなし

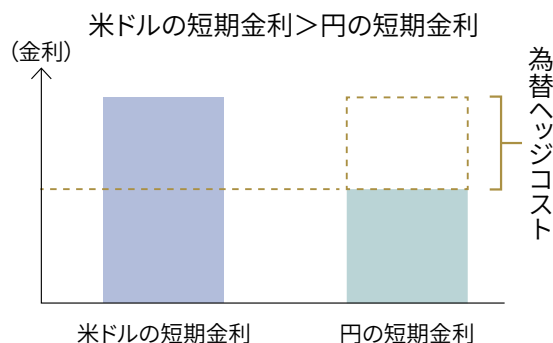


### 為替ヘッジあり



上記はイメージ図であり、すべての外貨建資産にあてはまるとは限りません。また、投資リスクのすべてを説明しているわけではありません。「為替ヘッジあり」は、組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本としますが、為替変動リスクを完全に排除できるわけではありません。

### 為替ヘッジコストのイメージ



$$\text{為替ヘッジコスト} = (\text{米ドルの短期金利}) - (\text{円の短期金利})$$

上記はイメージ図であり、為替ヘッジコストの決定要因は上記に限定されるものではありません。為替ヘッジコストがマイナスの場合（円の短期金利が米ドルの短期金利より高い場合）、為替ヘッジプレミアムが発生します。また、上記は取引通貨の短期金利差を用いた簡便法によるイメージであり、実際の為替ヘッジコストとは異なります。

## 参考ポートフォリオ(2023年10月31日現在)

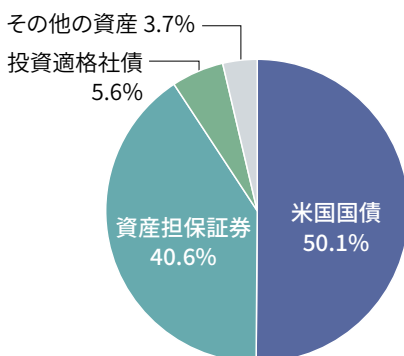
「参考ポートフォリオ」とは、これから運用を開始するマザーファンドのイメージをつかんでいただくための、仮のポートフォリオです。「参考ポートフォリオ」に関する情報は、2023年10月31日現在の市場環境等に基づいて作成したものであり、売買実行可能性や売買手数料、税金等の諸費用は考慮していません。また、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。ポートフォリオ特性値、債券種別配分、格付別配分は運用担当者の判断、市況動向、ファンドの資金動向等により変わります。

### ● ポートフォリオ特性値

平均最終利回り	5.3%
平均デュレーション	11.7年
平均格付	AA+
組入銘柄数	30

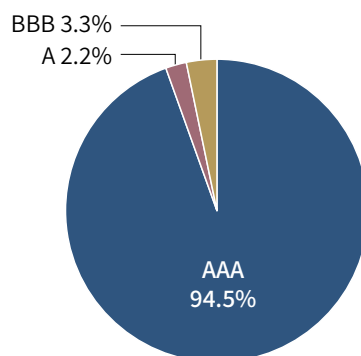
- ポートフォリオ特性値は、参考ポートフォリオの組入債券等（現金を含む）の各特性値（最終利回り、デュレーション）を、その組入比率で加重平均したものを、現地通貨建。また格付の場合は、現金等を除く債券部分について、ランク毎に数値化したものを加重平均しています。
- デュレーション：金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標。
- 平均格付とは、基準日時点で参考ポートフォリオが保有する有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

### ● 債券種別配分



- 上記はすべて米ドル建て債券。
- 格付は、S&P社、ムーディーズ社、フィッチ社による格付のうち、最も高い格付によります。格付がない場合はブランディワイン・グローバル社が同等の信用度を有すると判断した格付によります。
- 四捨五入により合計が100%とならない場合があります。

### ● 格付別配分



(出所) ブランディワイン・グローバル社のデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、**ファンドの運用実績ではありません。**ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。



## ファンドの特色

### 1 米ドル建ての公社債(国債、社債、モーゲージ証券等)(以下「米ドル建て公社債」といいます。)を実質的な主要投資対象※とし、安定した収益の確保と信託財産の成長を目標に運用を行ないます。

※各ファンドは「ブランディワイン米国債券戦略マザーファンド」をマザーファンドとするファミリーファンド方式で運用します。「実質的な主要投資対象」とは、マザーファンドを通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

### 2 ポートフォリオの構築にあたっては、トップダウンのマクロ分析および定量モデル等を活用したバリュエーション分析に基づき、ポートフォリオのデュレーションおよび債券種別の配分を決定します。

- ポートフォリオのデュレーションは、原則として概ね1年～10年程度に維持することを基本とし、金利や経済の見通しに応じて機動的に変更します。
  - ◆ 収益獲得の機会であると判断された場合等には、一時的に上記の範囲を超える場合があります。
  - ◆ 投資環境、市況動向、資金動向等を勘案し、委託会社が必要と判断した場合は、一時的に上記の範囲を超える場合があります。
- 原則として、投資時点においてBBB一格相当以上の格付(投資適格格付)を有する米ドル建て公社債、または同等の信用度を有すると判断される米ドル建て公社債に投資することを基本とします。なお、米国の国債については、格付に関わらず投資を行なえるものとします。
- ポートフォリオにおける債券種別の投資配分は機動的に変更します。
- 効率的な運用を行なうため、債券先物取引等のデリバティブ取引をヘッジ目的外の利用を含め実質的に活用する場合があります。
- 米ドル建て公社債の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

### 3 マザーファンドの運用にあたっては、ブランディワイン・グローバル・インベストメント・マネジメント・エルエルシーに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。

### 4 「ブランディワイン米国債券戦略ファンド(為替ヘッジあり)」は原則として為替ヘッジを行ない、「ブランディワイン米国債券戦略ファンド(為替ヘッジなし)」は原則として為替ヘッジを行ないません。 「為替ヘッジあり」「為替ヘッジなし」間でスイッチングができます。

\*販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合があります。

### 5 原則、毎年1月および7月の28日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として基準価額水準等を勘案し、委託会社が決定します。

- 初回決算日は2024年7月29日となります。

分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

#### 当資料で使用した指数等について

ブランディワイン運用戦略: ファンドと同様の運用体制、運用方針を持つ運用戦略「U.S. Fixed Income」のコンポジットデータ(費用控除前)

米国国債: ブルームバーグ米国国債インデックス

米国政府系住宅ローン担保証券: ブルームバーグ米国MBSインデックス

米ドル建て投資適格社債: ブルームバーグ米国投資適格社債インデックス

米国ハイイールド債券: ブルームバーグ米国ハイイールド社債インデックス

日本国債: ブルームバーグ日本国債インデックス

米国株式: S&P500株価指数(配当込み)

●「Bloomberg®」は、Bloomberg Finance L.P.および、同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limitedをはじめとする関連会社(以下、総称して「ブルームバーグ」)の商標およびサービスマークです。ブルームバーグまたはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

●S&P500株価指数(配当込み)は、スタンダード&プアーズファイナンシャルサービシーズエルエルシーの所有する登録商標です。

### 当ファンドの投資リスク ファンドのリスクは下記に限定されません。

各ファンドは、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

《基準価額の変動要因》 基準価額の変動要因は下記に限定されるものではありません。

#### ◆債券価格変動リスク

債券(公社債等)は、市場金利や信用度の変動により価格が変動します。ファンドは実質的に債券に投資を行ないますので、これらの影響を受けます。特にファンドの実質的な投資対象に含まれるモーゲージ証券等の価格は、期限前償還(元本の一部が満期前に償還されること)の影響も受けます。期限前償還によるモーゲージ証券等の価格変動は、各証券の種類や特性によって様々であり、一様ではありません。

#### ◆期限前償還リスク

ファンドが実質的に投資するモーゲージ証券等は、一般的に担保となっているローン債権等がいつでも繰上げ返済され得るため、期限前償還が発生します。また、一般的に金利が低下すると、ローン債権等の借り換えの発生が増加するため、期限前償還も増加する傾向があります。

期限前償還によってファンドが実質的に受取る償還金を再投資する場合の利回り水準は、一般的に期限前償還が生じなければ得られた利回りよりも低くなると考えられます。

ファンドがこれらの証券に元本を上回る価格で実質的に投資した場合、期限前償還により、当該証券の元本超過額を限度として損失が生じる場合があります。

#### ◆為替変動リスク

「為替ヘッジなし」は、実質組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行ないませんので、為替変動の影響を受けます。「為替ヘッジあり」は、実質組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本としますが、為替変動リスクを完全に排除できるわけではありません。また、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかるため、基準価額の変動要因となります。

### 《その他の留意点》

#### ◆ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

●ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止等となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性等があります。

●資金動向、市況動向等によっては、また、不慮の出来事等が起きた場合には、投資方針に沿った運用ができない場合があります。

●ファンドが実質的に組み入れる有価証券の発行体において、利払いや償還金の支払いが滞る可能性があります。

●有価証券への投資等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手方の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。

●投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

●ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。

分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

## お申込みメモ

●信託期間	2034年1月30日まで(2024年2月16日設定)	
●決算日および収益分配	年2回の毎決算時(原則、毎年1月および7月の28日(休業日の場合は翌営業日))に、分配の方針に基づき分配します。 *初回決算日は2024年7月29日となります。	
ご購入時	<当初申込期間(2024年1月22日~2024年2月15日)>	
	●ご購入価額	1万口=1万円
	*ご購入代金は2024年2月15日までに販売会社にお支払いいただきます。	
	<設定日(2024年2月16日)以降>	
●ご購入価額	ご購入申込日の翌営業日の基準価額	
●ご購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。	
●ご購入単位	ご購入単位は販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。	
ご換金時	●ご換金価額	ご換金申込日の翌営業日の基準価額
	●ご換金代金	原則、ご換金申込日から起算して6営業日目から販売会社でお支払いします。
	●ご換金制限	大口換金には制限を設ける場合があります。
その他	●スイッチング	「為替ヘッジあり」「為替ヘッジなし」間でスイッチングが可能です。 *販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
	●お申込不可日	販売会社の営業日であっても、お申込日当日が以下のいずれかの休業日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。 ・ニューヨークの銀行 ・ニューヨーク証券取引所
課税関係	個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ファンドはNISA(少額投資非課税制度)の対象ではありません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。	

※お申込みの際には投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

## 当ファンドに係る費用

(2024年1月現在)

●ご購入時手数料	ご購入価額に <b>2.2%(税抜2.0%)以内</b> で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
●運用管理費用(信託報酬)	ファンドの保有期間中に、期間に応じてかかります。 純資産総額に <b>年1.298%(税抜年1.18%)</b> の率を乗じて得た額
●その他の費用・手数料	ファンドの保有期間中に、その都度かかります。 (運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません)。 ・組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・外貨建資産の保管等に要する費用 ・監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ファンドに関する租税 等
●信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

販売会社によっては、一部のファンドのみのお取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

### 当資料について

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成した販売用資料です。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

### お申込みに際してのご留意事項

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

<委託会社>野村アセットマネジメント株式会社[ファンドの運用の指図を行なう者] <受託会社>三菱UFJ信託銀行株式会社[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先: 野村アセットマネジメント株式会社

●サポートダイヤル ☎ 0120-753104 <受付時間> 営業日の午前9時~午後5時

●ホームページ

<http://www.nomura-am.co.jp/>

